ところがその防衛ラインに

ン)」を発表したのである。

退防衛線(アチソン・ライ

ピン~アリューシャン列島

た。その後1954年7月

ナ紛争のため延期され

にウィルソン国務長官は朝

軍基地に優先順位を4段階 に分け、琉球諸島~フィリ

そこでJCSは海外の米

退予定であったが、インド

生を持つた親

朝鮮半島と米軍 脅威存在する地域のプレゼンス の前方展開態勢

め、戦後の米軍基地態勢 画の立案を命じた。JCS の終焉前に統合参謀本部 は軍事的脅威をソ連と定 大統領は第2次世界大戦 戦後である。ルーズベルト 関与したのは第2次世界大 (JCS570/40)を作 (JCS) に戦後の防衛計 米国が朝鮮半島に初めて 半島有事を看過できず、そ たこともあり、米国として の発表から半年後の6月に れていて休戦決定に従い撤 個師団が朝鮮半島に配置さ 戦協定が締結された。朝鮮 を経て1953年7月に休 朝鮮戦争が勃発した。 陸軍は7個師団、海兵隊1 戦争が休戦した時点で、米 朝鮮戦争はそれから3年

判断していたのである。 り朝鮮半島は重要でないと が1950年1月に「不後 た。米国は自国の国益にと にわたる地域を最優先とし ィーン・アチソン国務長官 それに基づき、当時のデ 防衛条約(1954年)、 鮮半島における米軍の態勢 を決定した。 さらに台湾と米華相互防衛 米国は日米安全保障条約 (1951年)、米韓相互 そして、朝鮮戦争により

対して、米軍は今、グロー

威の存在する地域への米軍 した。こうして、米国は脅 のプレゼンスの重要性を学 条約(1954年)を締結

び、北東アジア地域におけ 米国が「矛」、日本が「盾」の現在の分業体制

発表した。中国との覇権争 2艦隊を復活させることを と大西洋北部に対する脅威 ととなろう。事実、中国の 地域へ余力を振り向けるこ ることになれば、米軍は北 いとロシアの軍事的挑戦に 東アジアでの軍事力を他の 増大への対処に備えて、第 た、ロシア軍の米東部沿岸 軍」と改称し活動範囲をイ 平洋軍を「インド太平洋 ンド洋にまで広げた。ま 「一帯一路」を見据えて太 朝鮮半島から脅威が消え 強化に向かうことになる。 されるからである。 の防衛にあたることが予想 持った日米同盟の新戦略の が主となり北東アジア地域 立案であろう。今後は日本 なことは、日本が主体性を

東アジアでの態勢に変化す を完了させたのである。 る動きが出てきている―。 朝鮮戦争が終結し米軍の北 る米軍の「前方展開態勢」 それから65年後の現在、

北東アジア情勢と日米安保の役割

る。そうなれば米韓連合軍 定が平和条約に切り替えら れれば、国連軍は解体され もし、朝鮮戦争の休戦協

第 3 回

米国と北東アジア

拓殖大学海外事情研究所所長

可

れる。さらに、米朝友好条 約が締結されれば、北朝鮮 持つことになり米軍はそれ は米韓の敵国でなくなり米 を許容できるのかかが問わ の戦時作戦統制権も韓国が

韓米軍の撤退もあり得る。 ろう。そうなれば、北朝鮮へ の抑止力を任務として駐留 する約2万8000人の在 韓相互防衛条約の破棄とな

日米対等に戦略・戦術を共有する状況を

う。その結果、日米同盟は る米国の防衛ラインを日本 いるのである。 まで後退することになれ その際、日本にとって重要 の態勢を見直すことになろ ば、米軍は北東アジア地域 一方、北東アジアにおけ

成した。

務副長官が、パワー・シェ かつてアーミテージ元国 ら。 比2%達成が必要となろ ことが急務となる。そのた めには自民党の提言にもあ るように防衛費の対GDP

戦術を自らの意志で共有で とは「日本が自らの戦略を アリング型同盟を提唱し きる状況」をいう。 持ち、米国と対等に戦略と

役割を果たすものである。 日本が「盾」といった日米 れば、より強固となる。 ワークをこれに重ね合わせ 域安全保障の安定機能を果 グ型同盟は北東アジアの地 和と安定に貢献するものと 分業体制ではなく、日米が なる。パワー・シェアリン により北東アジア地域の平 目衛隊と米軍との共同作戦 たすことになろう。さら に、米国が持つ同盟ネット これは、米国が「矛」、 帯となった「矛と盾」の

割をこれまで以上に増やす 戦略のもと、日米同盟の役 であろう。 針とし防衛大綱と中期防衛 的に示している。これを指 鮮および中国)と認識した 防部会の「新たな防衛大綱主党の安全保障調査会・国 5月25日に出された自由民 力整備計画は策定されるの 大の危機的情勢(特に北朝に向けた提言」で、戦後最 および中期防衛計画の策定 上での対処策について具体 また、日本は独自の防衛 日本の戦略に関しては、

北東アジアの平和と安定に日米が共